



# ボーイスカウトぐんま

Gunma Council, Scout Association of Japan

日本ボーイスカウト群馬県連盟 広報誌

2023.2 vol.9



## ●第18回 日本スカウトジャンボリー 特集号



群馬県のボーイスカウト  
(令和4年12月31日現在)

スカウト数 **590**名

加盟員総数 **991**名

群馬県のマスコット「ぐんまちゃん」  
許諾 第 28-140729号





もくじ

- 02 大会概要
- 04 全国代表  
スカウトキャンプ
- 06 各隊報告
  - 06 群馬1隊
  - 08 群馬2隊
  - 10 群馬3隊
  - 12 群馬4隊
  - 14 群馬5隊
- 16 各章受章者紹介  
連載記事



# 18th NIPPON SCOUT JAMBOREE ALL OVER JAPAN

埼玉サテライト会場・群馬派遣隊

本大会は、新型コロナウイルスのまん延の影響を受け、従来のジャンボリーとは異なる、初の分散開催型のジャンボリーとなりました。群馬県連盟は、全国5か所に設けられたサテライト会場の1つである、埼玉サテライト会場への参加を決定しました。

令和4年の夏は感染者の増加が止まらず、全国の多くの会場で開催規模や実施可否を再検討せざるを得ない状況となり、全国5か所のサテライト会場のうち3か所が中止となりました。そういった中、群馬派遣隊が参加した埼玉サテライト会場は予定通りの開催となり、全国最大の参加者数で約1,200人の規模でのキャンプ生活となりました。

会場の「秩父ミュージックパーク」は、埼玉県秩父市と小鹿野町にまたがる広大な敷地の自然公園です。群馬派遣隊は、A・Cの2か所のサブキャンプで5泊6日の野営を行いました。

## 大会日程

日	主なプログラム	天候
8月4日(木)	スカウト入場、設営、開会式	曇り のち雨
8月5日(金)	場内外プログラム、交流プログラム	小雨 のち曇り
8月6日(土)	場内外プログラム	曇り
8月7日(日)	信仰奨励、ジャンボリー大集会	曇り ときどき晴れ
8月8日(月)	場内外プログラム、閉会式	晴れ のち雨
8月9日(火)	撤営、スカウト退場	晴れ

## 大会会場図



## 派遣隊グッズ



©群馬県 ぐんまちゃん 00202-01

今回の大会では、群馬といえば「ぐんまちゃん」をあしらったワッペン・ネックカーフ・キャップ・缶バッジを製作しました。大会期間中は制服として参加スカウト・指導者が着用したほか、記念品や交換グッズとしても好評でした。

### 第18回日本スカウトジャンボリーを終えて

群馬県連盟より、第18回日本スカウトジャンボリー一埼玉サテライト会場に参加をいただきました、派遣隊5ご隊のスカウト・指導者ならびに奉仕スタッフ総勢175名の皆様が、無事安全に帰還され大会を終えましたことを、深く感謝申し上げます。

今回の18NSJは、ボーイスカウト日本連盟が大正11年(1922年)に発足して100周年の節目の年であり、100周年記念を祝う重大イベントのひとつではありますが、東京を主会場にして各地での分散開催になりました。開催直前において、第7波の感染拡大を受けて多くのサテライト会場が開催中止をする中で、幸いにも埼玉サテライト会場は開催され、群馬派遣隊一同が参加できたことは、埼玉県連盟の皆様のおかげと重ねて感謝申し上げます。

今回の参加したスカウトのみなさんにとって、5泊6日のジャンボリーは自然環境の変化やチームワークの大切さなどを体感しながら、さまざまにプログラムを体験し、また、他県のスカウトとの交流を深める場でもありました。さらに、東京主会場とインターネットをつないだ8月7日のジャンボリー大集会では、印象に残るセレモニーや秋篠宮皇嗣両殿下のご臨席を賜り、代表スカウトとのお懇談やスカウト運動に対

する激励メッセージを拝聴することができました。このような今までに味わったことのない体験は、スカウトのみなさんの今後の活動に役立ち、各自の成長につながっていくものと確信します。

おわりに、18NSJの参加へのご支援・ご協力をいただきました団・隊指導者、地区・県連盟関係者、保護者の皆様に、改めて深く感謝申し上げます。

開催地は未定ですが、次の4年後の日本スカウトジャンボリーに向けて、日々精進して参りましょう。

日本ボーイスカウト群馬県連盟  
理事長 大川由明

### 第18回日本スカウトジャンボリーに参加して

開催期間中の感染対策に配慮し、開催前までは日々の感染者数、群馬・埼玉両県の対応を注視していましたが、幸い県レベルでの開催規制を行うまでの基準に達することなく、開催日を迎えることができました。

一昨年からの感染症の影響で、この2年間はスキルアップ・進級に支障をきたし、十分な野外活動が行えない状況下で5泊6日の長期キャンプを行うことに、難しさを感じていた隊指導者もいたことと思います。幸い参加スカウトは今回の事前訓練キャンプでの体験を本大会で十二分に活かされたものと感じています。

感染症の影響も最小限に留めて無事終了できたことに、指導者ももとよりスタッフ・参加スカウト各位に感謝申し上げます。

天候については、開催前に続いた猛暑日もなく、むしろ過ごしやすい気温が続き、熱中症による体調不良も出ず、プログラムを楽しめたものと推測しています。

場内プログラムでは群馬県勢は好成績を収め、野営工作では上位3位までを独占する成績を上げました。また場外プログラムでは、なかなか水に触れる機会が少なかった状況から、ラフティングなど存分に楽しめたとのスカウトからの声がありました。

5日目には群馬県スカウト振興議員連盟の県議3名の訪問を受け、間近での野営生活の見学により、スカウト活動の理解を深めていただけたものと思います。

分散開催でしたが、埼玉のスカウトや、少人数の参加ではありましたが東京のスカウトとの交流もできたことで、いくぶんでも従来に近いジャンボリーらしさを味わうことができたのではないかと思います。

スカウトたちが今回の長期キャンプを体験できたことで、今後の活動に一層積極的に取り組み、隊・団も活性化していくことを期待しています。

第18回日本スカウトジャンボリー群馬派遣隊  
実行委員長 藤井春俊





各サテライト会場への派遣隊とは別に全国代表スカウトキャンプが開催され、東京都大田区の会場での会舎と日向・秩父両会場での野営を行いました。100周年を記念する大会の経験を持ち帰り、全国大会の意義を共有するのが目的です。

群馬県連盟代表として、太田地区・大泉第5団ボーイ隊の林古都芭さんと根岸樹里さんが参加し、全国30県連盟の代表スカウトと一緒にキャンプ生活を送りました。

## 全国代表スカウトキャンプに参加して

私たちは8月4日から10日まで、群馬県連盟の代表スカウトとして、第18回日本スカウトジャンボリーの全国代表スカウトキャンプに参加してきました。

まず、東京都大田区にある「青少年交流センターゆいっつ」に集合し、代表スカウトキャンプの開会式が行われました。どんな仲間に出会えるのかワクワクしていたのを覚えています。最初はみんな緊張した雰囲気でしたが、レクリエーションや班旗作りを通じて、しだいに仲良くなっていくことができました。

5日には、埼玉サテライト会場に移動しました。昼は設営、夜は交流会があり、レクリエーションや名刺交換、グッズの交換をしました。埼玉県の団のスカウトだけにとどまらず、代表スカウトとの交流でも、自分の団との違いをたくさん感じました。方言や各地の文化など、さまざまなことを学べました。

6日に参加した日本プログラムでは、それぞれの班が班旗立て・火おこし・手旗の日本一に向けて奮闘しました。そこでは、目標に向かって全員で息を合わせる大切さを再確認することができました。その結果、班旗立て・手旗・火おこしそれぞれで良い成績を残すことができ、今後の自信へとつながると感じています。

さらに、この日は大会中に誕生日を迎えた根岸樹里さんの誕生日会をしていただきました。誕生日だった本人はもちろん私たちまでも、企画して下さった指導者の方々のおかげでとても楽しく、思い出深い時間を過ごすことができました。

7日は、いよいよ待ちに待ったジャンボリー大集会です。ここでは一生に1度あるかないか、ジャンボリーならではの貴重な体験がたくさんできました。その1つとして、秋篠宮皇嗣同妃両殿下とのご懇談です。両殿下にはジャンボリー大集会の会場にご来場賜り、貴重なお言葉をいただけただけでなく、ご懇談の場を設けて下さったことに大変感謝しています。緊張している中でお二人はとても優しく話しかけてくださり、緊張がほぐれたのが強く印象に残っています。

そして、ジャンボリー大集会では群馬県連盟代表としてステージに立ちました。ぶっつけ本番に近い状態でやりとげられるか不安でしたが、仲間へアドバイスをもらい、無事役目を果たすことができました。大集会の会場はすごく一体感があり、初めて会ったとは思えないようなコミュニケーションが取れたことの喜びと感動を感じました。

(林古都芭)

信仰奨励のプログラムでは、神道の宗教儀礼講習を受けました。実際に体験しながら、日本の伝統的な文化に触れることができました。

8日の夜には埼玉サテライト会場の閉会式が行われました。埼玉サテライト会場で過ごしたスカウトたちの活動記録ビデオを見たり、日本プログラムの表彰があったりしました。後半には、スカウトへ感想を聞くコーナーがありました。もうこの18NSJも終わってしまうんだ実感、少し寂しい気持ちになりました。

9日は、午前中に撤営の作業がありました。その後、代表スカウトは東京のゆいっつへ戻り、今回のジャン

ボリーの振り返りをしました。

このジャンボリーでは、つらいことや大変なこともいくつかあったけれど、それ以上に楽しく、ワクワクする体験がたくさんできました。そのさまざまな思いをみんなで共有し、自分たちの成長を感じることができました。また、指導者の方々と一対一でお話することもできました。お褒めの言葉や応援の言葉をかけていただき、これからの隊での活動も精一杯がんばっていこうと思いました。

6泊7日と短い期間ではありましたが、新しい仲間たちと出会い、行動する中で、強い絆ができました。いざ別れるとなるととても名残惜しく、閉会式終了後もしばらく帰れずにいました。とても有意義な時間を過ごすことができた今大会は、一生忘れることのできない大切な思い出になりました。

今回のジャンボリーは、初めての長期キャンプで、普段は感じることもない刺激をたくさん受けることができました。今までにないほどの強い緊張感や、達成感、そして仲間との絆を感じました。私は初めてのジャンボリーを体験し、改めてボーイスカウトを続けてきてよかったと思うことができました。

今回感じたこと・学んだことは、これからのスカウト活動に生かして、よりよい活動ができるようにしたいと思います。また、このジャンボリーに参加し、貴重な体験をしてこられたのは、私たちを気づかい、支えてくれた関係者の皆様や両親のおかげです。本当にありがとうございました。

(根岸樹里)





# ジャンボリー 行ってきた

～ジャンボリー大集会編～

さいたまの  
マスコット  
キャラクター

始める前は  
野外ステージで  
たいこの演奏

音楽堂に400人くらい  
集まったよ～ん

始める直前は  
撮影時の  
確認!!

さいたま市のマスコットキャラクター  
「さいたまちゃん」

「さいたまちゃん」  
「コバトン」

いよいよ  
LIVE中継に  
出演!

え、きろくなんて言た?  
私英語わかんないけど...  
Cア.グンマーで!!

司会のお姉さんと  
ハイチーズ

撮影時の  
最終確認中

中継終了後の  
アピールタイム

楽しんでるよ～!!

群馬1隊は、太田地区の太田第5団と太田第6団による混成隊です。Cサブキャンプで野営生活を行いました。昨年10月30日に行われたジャンボリー報告会では、写真のような模造紙を使って味のある発表をしてくれました。群馬1隊のみなさんには、キャンプ生活全般について紹介させていただきます。



## 初の本格的な長期キャンプ

僕がボーイ隊に入隊してからのほとんどが新型コロナウイルスの影響で活動することが難しくなり、地区や県でのキャンプが中止になって、長期間のキャンプに自分がついていくことができるのか不安がありました。また、6月に股関節の剥離骨折をしてしまい、みんなと同じように活動ができるまで回復をしていなかったため、体も心も大変でした。しかし、班の仲間などの多くの仲間の協力もあり、毎日とても楽しく過ごすことができました。

活動の中でとても楽しかったのは、日本一プログラムの「我が旗かざし」です。普段の活動での練習では、時間ではなく「どれだけ高く掲げることができるのか」で練習をしていたので、ゼロの状態から自分たちがどれほど通用するのかワクワクしました。また、班のみんなとは「美しさで日本一を目指す」ことを目標にしました。結果では9秒台で立てることができましたが、担当のローバースカウトの方にきれいだと言ってもらえて嬉しかったです。

この日本スカウトジャンボリーで得た経験を、来年の世界スカウトジャンボリーやその他の活動にも生かしていきたいです。

くま班 班長 中島侔紀

## ソロテント効果

3年間、1泊以上のキャンプをしたことがなかった世代が、いきなり5泊6日の長期キャンプに挑戦するのは本当に大変でした。大きな事故なく終わられたのは、出発前にスカウトのコンディションを整えてくれたご家庭のおかげです。本当に感謝したいと思います。

1泊2日の訓練キャンプを4月から5回やり、キャンプに慣れたものの、夜は騒いで寝ない日々でした。本番でこれではすぐにばてしてしまうと感じましたが、実際は昼間の活動で手一杯夕食を作る気もなく、ボーっとしてしまうスカウトが散見されました。私は迷わず夕食なしですぐに寝かせることにしましたが、ソロテントにしたことで、だれにも邪魔されずに朝までぐっすり寝てしまうスカウトばかりでした。

長期キャンプに慣れていないスカウトにとって、ソロテントはだれにも邪魔されない安眠の地だったのでしょうか。これは、感染防止対策以外のソロテント効果として今回実感したことでした。

群馬1隊 隊長 原田 隆





群馬2隊は、桐生地区・桐生第22団と太田地区の大泉第5団、邑楽町第1団、館林第1団による混成隊です。Cサブキャンプで野営生活を行いました。群馬2隊のみなさんには、主にサブキャンプでのサイト整備や食事などキャンプ中の生活について紹介させていただきます。



## 野営料理と日々の改善



「個泊」「個食」「日々の改善」について紹介します。  
 まず「個泊」についてです。大会中はソロテントを使って一人で寝る「個泊」となりました。個泊の良かった点は、  
 ○A型テントに比べて設営が楽だった ○資材の量が少なくなった  
 などで。辛かった点は、  
 ○蒸す ○雨の後の乾かす作業が面倒  
 などで。  
 次に「個食」についてです。大会中はメスティンを使い、自分で自分の分の食事を作りました。他の人と同じ調理器具を使わずに済むよう準備しました。クッキングシートなどを使って焦げ付きを防ぎ、排水が少なくなる工夫をしました。  
 最後に「日々の改善」についてです。まず「物干し場」を作りました。濡れた作業衣の他に、寝袋なども乾かせたので、快適に生活できました。また、タープの縫い目がほつれて雨漏りしたときは、自分たちで縫って直しました。雨漏りで濡れることがなくなり、うれしかったです。

(館林第1団)

## 悪天候対策と郷土料理



「キャンプサイト」「郷土料理」「野営工作」「SDGsの取り組み」について紹介します。  
 まず「キャンプサイト」についてです。タープやテントを建て、炊事場を作ることができたサイトは、広くて水道も近く、良いところだったのですが、雨が降ると地面がぬかるみ、長靴なしでは過こせなくなります。そこで、通路に枝を敷き、ぬかるみに足を取られず歩けるよう対処しました。  
 次に「郷土料理」についてです。2日目の夕食に出た「味噌豚炒め」は秩父の郷土料理だそうです。とてもおいしかったです。献立は味噌豚炒め・ご飯・わかめスープ・ピーチゼリーでした。  
 3日目は「野営工作」についてです。立ちかまどを発展させて、道具置場・掲示板・物干し台として使えるよう工夫しました。  
 最後に、「SDGsの取り組み」についてです。食事で使う食器にビニールやラップを被せて洗い物を減らし、洗い物に使う水を節約しました。また、パソコンを使ってSDGsのクイズに挑戦して、関心と理解を深めました。

(桐生第22団)







群馬3隊は、前橋地区の前橋第1団、前橋第3団、前橋第5団、前橋第7団、大胡第1団、沼田第1団による混成隊です。Aサブキャンプで野営生活を行いました。群馬3隊のみさんには、主に場内・場外で行われたプログラムについて紹介させていただきます。



現地のキャンプサイトでの、料理を作るための机の上です。まだキャンプの生活になれていなかったため、ごみが散乱しています。



日本一プログラムの「火起こし」です。ユニットB全員で協力して火を起こし、太い麻ひもを焼き切ることができました。



兼荻班の班旗と、前橋隊の荻原隊長の写真です。そっくりでしょう？ 兼荻班の班長が描いてくれました。



場外プログラムでは、川下りと焼き物づくりをしました。焼き物づくりでは、皿に自分の好きな絵を描きました。



ラフティングの川下りに参加したみんなで記念撮影。草加第8団（埼玉県連盟）の7名と葛飾第9団（東京連盟）の6名も一緒でした。





群馬4隊は、高崎地区の高崎第8団、高崎第17団、高崎第22団、松井田第1団による混成隊です。Aサブキャンプで野営生活を行いました。群馬4隊のみなさんには、場内・場外で行われたプログラムについて紹介させていただきます。

## 初めての体験がいっぱい。投石機作りでは優勝!

場外プログラムについて紹介します。まず、鍾乳洞に行きました。洞内は撮影禁止のため写真は撮れませんが、中は入り組んでいて冒険しているような感じで、すごくおもしろかったです。

次は浦山ダムです。約500段のとても長い階段があり、そこは仮面ライダーのロケなども使われています。出演者のサインもたくさんありました。

場内プログラムの班旗立てでは、何度も挑戦し直し、3位という納得のいく結果を残すことができました。SDGsのプログラムでは、「陸の豊かさを守ろう」という目標にして5日間を過ごしました。みんなで使う排水溝が残飯などで汚れていたのを掃除しました。

18NSJを通して、仲間という存在の大切さを感じることができました。仲間との協力がなければ班旗立てで良い成績を残せませんでした。仲間がいたから泊6日という長いキャンプ生活も楽しく過ごすことができました。ご当地飯のわらじカツは顔ほどの大きさでした。ボリューム満点で、お腹がいっぱいになりました。

ジャンボリーのさまざまなかごを通して、ユニットの友達とも埼玉の方たちとも親しくなることができました。仲間が増えることはうれしかったです。と

でも楽しく、うれしい思い出ができました。

(8松22班)

信仰奨励のプログラムでは、それぞれのスカウトが興味のある宗教に分かれて学びました。話が聞ける宗教は、仏教・キリスト教・金光教・神道の4つでした。私は金光教のお話を聞きました。金光教では、身の周りの自然の中に神様がいて、それらのもに日々感謝すべきだと教えていただきました。今まで金光教について全く知りませんでしたが、お話を聞いて、案外身近なことだと感じました。

次に、私たちのジャンボリーでのメインイベントである、場外プログラムのカヤックについてです。初めてのカヤック体験だったので不安でしたが、乗ってみたら案外簡単で、初心者でも楽しむことができました。私たちがカヤックに乗ったのは前の班の人たちとは別の場所で、滝やカワセミを見たり、森の奥に入ってきたりして澄んだ冷たい水をかけあつたりしました。川に落ちたわけでもないのにビショビショになったりもして、自然の中で存分に楽しみました。この夏の忘れられない思い出になりました。

(イグマタクマ班)

場外プログラムのフィッシングでは、釣り場に行くのに駅までバスに乗る予定でしたが、来たバスが満員

で、同じバス停で待っていた数十人のスカウトが1人も乗ることができませんでした。そこで仕方なく指導者の車で送ってもらいました。

釣り場ではマス釣りに挑戦しました。エサのぶどう虫を付けたときに白い液が出てきて気持ち悪かったのですが、釣れたときはとてもうれしかったです。みんな魚を釣ることができ、とくに班長が18匹も釣っています。釣ったマスは有料で食べることができて、とてもおいしかったです。

場内プログラムの野営工作・投石機作りでは、完成品を見ながら、用意された11本の竹を麻ひもでしばって投石機を作り、どの班が一番速くにボールを飛ばせるのかを競いました。1回目は、残念ながら本番前の練習で竹にヒビが入ってしまい、良い記録を出すことができませんでした。悔しかったのと、ちょうどプログラムもすいていたので、もう1度投石機作りに挑戦しました。2回目は1回目の経験をもとに、結びを強したり、竹を太くまとめたりなどをして強度を増しました。結果、埼玉サテライト会場で1位の記録を出すことができました。しかも、1位から4位までを群馬4隊・5隊で独占して、閉会式ではステージ上で表彰を受けました。

(ホワイトベアー班)



記録証		野営工作(投石機) ランキング	
ホワイトベアー班	飛距離 36.7 m	1	群馬4隊 初体験 36.7m
あなたは、第18回日本スカウトジャンボリー埼玉サテライト会場で開催された野営工作(投石機)において、上記の記録を達成したことを証します。		2	群馬5隊 GHG 36.2m
令和4年 8月 8日		3	群馬8隊 八松一 32.8m
第18回日本スカウトジャンボリー 関東ブロック埼玉サテライト会場 野営工作(投石機)		4	群馬4隊 Y* 32.0m
		5	群馬5隊 110-35 30.5m







群馬5隊は、高崎地区の高崎第18団と群馬町第1団による混成隊です。Aサブキャンプで野営生活を行いました。群馬5隊のみなさんには、場内・場外で行われたプログラムについて紹介させていただきます。

## 失敗も良い経験。雨に悩まされた6日間

モグラ班からは、カヤック体験と日本一プログラムこの火起こしについて紹介します。

カヤックは初めての体験で、普段水面の上にいることにはないので不思議な体験でした。カヤックの出し入れは2人1組で担当しました。重くて腕が痛くなりました。カヤックは重くバランスをとるのは難しかったのですが、1回1回こごごことによって少しずつ慣れていき、だいに水の上を歩くように進むことができました。だれもひっくり返ることはなく、水に落ちることはありませんでした。川を上っていくのに、パドルをこいでいくのは辛かったですが、帰りの下りでは、とても気持ちよく流されていきました。

1日前が雨だったため川がコーヒー色でしたが、長瀬の自然を楽しむことができました。長井副長がたくさんいい写真を撮ってくれましたが、そのせいでスマートフォンが水没してしまいました。みなさんも機会があれば、ぜひカヤックをこいでみてください。

次に、日本一プログラムの火起こしを紹介します。与えられた器具と自分たちで持ってきた薪を使い、時間内に麻ひもを切るというプログラムでした。ブロックの組み立てから時間に含まれました。麻ひもの位置は決まっていたので、薪の組み方でした。班全員で協力して薪を組み、火を付けました。最初は火の勢いが強く麻ひもが切れそうなところでしたが、惜し

くもタイムオーバーになってしまい、麻ひもを切ることはできませんでした。薪を少し奥で組んだり、1人1人やることを決めてそれぞれがしっかりできれば良かったと思います。悔しかったのですが、自分たちにとっていい経験になりました。また挑戦してみたいです。ジャンボリーの食事は自分たちで作ります。ご飯を炊いたり、野菜を切ったりして料理をします。毎日料理をしていくうちにおいしくなっていく、ご飯を炊くのはお手のものです。

5泊6日の長いキャンプは初めてでしたが、プログラムを通して成長できたなと思います。

今後ジャンボリーに行く人にアドバイスです。夜遅くまで起きたいという気持ちはありますが、ジャンボリーでは早めに寝ないと大変なので、良い子は早めに寝ましょう。次の日元気に遊べます！ **(モグラ班)**

つづいてフクロウ班からは、ラフティングと日本一プログラムの手旗について紹介します。

まずはラフティングです。ラフティングとは7人ほどでボートに乗り川を下っていくものです。みんなでパドルを使い、力を合わせて、川を下っていきます。私たちは7キロほど長瀬の川を下り、途中で岩量などのきれいな景色を楽しむことができました。前日に雨が降ったことで普段より水の量が3、4倍に増えていたそうです。そのおかげで川の勢いが増えている、ス

リル満点のラフティングでした。

パドルの先端を向かい合わせで引っ掛け、長く耐えられるほど信頼し合っているというゲームをしました。みんなでやってみたら、班員の丸橋・長井ペアが開始1秒ほどで同時にボートから消えてしまいました。長瀬の川での1日を、最初から最後まで楽しみつくことができました。

日本一プログラムでは、手旗に挑戦しました。班で4つのポイントに分かれ、問題を手旗で送信します。1回目の問題は「BPの生まれた国は？」。「BP」と送信するのが難しく、最後の人まで問題を伝えることができませんでした。再挑戦してもいいかと聞いて、2回目の挑戦をしました。1回目から順番を変えて挑みました。今度はスムーズに伝わって、時間内にクリアすることができました。結果は埼玉サテライト会場が第3位。閉会式では名前を呼ばれ、とても思い出に残る日本一プログラムになりました。

このジャンボリーは雨に悩まされた6日間でした。グチョグチョになったテントサイトには板を設置しました。テントに帰るたびに靴がドロドロになっていたのも、この板のおかげでとても快適になりました。

大変だったこともありましたが、楽しいこともそれ以上にたくさんありました。一生の思い出に残る6日間になりました。 **(フクロウ班)**





# ステップアップおめでとう!

令和4年2月～12月までに履修したスカウトの紹介です。

(敬称略)

## 隼スカウト



**平山希帆**

高崎第17団 R4.3.6

●取得に向けて励む中で大きく成長することができました。後輩に楽しさを伝えられるような活動をしていきたいです。



**矢内花音**

高崎第17団 R4.3.6

●自分の興味のある分野について多くの経験をする事ができました。これからも仲間とともにがんばっていきます。



**中島宥紀**

太田第5団 R4.7.2

●先輩と後輩の協力なしでは取得できていません。たくさんの方々に感謝し、今後にしっかりとつなげていきます。



**樋口賢伸**

前橋第1団 R4.9.4

●勉強や部活で忙しい中、自分なりに時間を見つけて活動に参加しました。今後は富士章取得への努力を続けます。



**天宮光琳**

前橋第1団 R4.9.4

●隼章取得は指導者の方々や仲間の協力のおかげで成し遂げられました。今後もこの経験を活かしたいです。

## 菊スカウト

**佐藤慎哉**

太田第5団  
R4.3.6

**野口由衣**

高崎第17団  
R4.5.8

**吉田脩人**

太田第5団  
R4.7.2

**反町心音**

高崎第8団  
R4.11.6

**須藤優希**

高崎第17団  
R4.3.6

**高田優芽**

高崎第17団  
R4.5.8

**日馬望冬**

高崎第8団  
R4.11.6

**中島倅紀**

太田第5団  
R4.11.6



富士スカウト 該当者なし

## Column ボーイスカウトの進級課程

ボーイスカウトは6段階の進級章を取得して、到達点である富士スカウト章を目指します。しかし、つらく厳しいばかりの活動をしているわけではありません。自分の進級だけを追い求める活動ではないのです。集会はスカウトたちの自治により計画・実行され、班活動を軸に上級スカウトが指導することで班員のスキルを上げていきます。まず「まねる」「失敗から学ぶ」「教えることで学ぶ」を実際に経験しながら成長していきます。



## ●ボーイスカウト豆知識 007 技能章「野営章」

**技能章には** 進級課目と連動して取得する9種(円のふちが赤)と、興味関心に応じて任意に取得可能な74種(円のふちが緑)があります。

**野営章** 菊章取得に欠かせない技能章のひとつです。ボーイ隊の活動の醍醐味でもある野営。昨年8月には日本スカウトジャンボリーが開催され、訓練を含め、野営の辛さと楽しさ、何よりも充実感をたくさんスカウトが実感したことでしょう。

野営章では、キャンプ地の選定、サイト設計、テントの種類や機能を説明でき、実際に張れること。天候による装備の取り扱い、実践で使えるローピング、衛生的なキャンプを行うための方法、明かりの正しい取り方など、多岐にわたる技術が審査されます。また、通算10泊以上のキャンプに参加していることが求められる、難易度の高い技能章です。



## 予定されている大きな行事

- 令和5年(2023) 8月 <韓国>  
第25回世界スカウトジャンボリー
- 令和6年(2024)  
第18回群馬カブラリー
- 令和7年(2025)  
第31回群馬県野営大会
- 令和8年(2026)  
第19回日本スカウトジャンボリー

## 小磯正康法律事務所

弁護士 小磯正康

弁護士 齋藤守永

前橋市大友町1-3-2 東和ビル3F ☎ 027-252-8553

## 造園センター

株式会社

## 太田造園土木

〒370-0604

群馬県邑楽郡邑楽町石打421-1

☎ 0276-88-5498

全国の処方せん受付



## ぶんきょうちようざいやっきょく 文京調剤薬局

〒371-0802 前橋市天川町1667-21 TEL 027(289)3623 FAX 027(289)3624

居酒屋タイニング



前橋駅の直ぐ近く ~気軽に立ち寄れる焼き鳥屋~

前橋市表町2-22-18 TEL 027-212-8176

17:00~24:00 (LO 23:30) 夜10時以降入店可

高野山真言宗  
華敷山補陀落院  
しだれ桜の



## 慈眼寺

〒370-0026

群馬県高崎市下滝町19

TEL 027-352-8365

FAX 027-352-8470